

平成27年度 第1回 瑞穂市まちづくり基本条例推進委員会



日時：平成27年5月11日（水）18:00～
場所：穂積庁舎 3階 第1会議室

(2) 市長からの諮問について

①内容の確認

諮問事項 瑞穂市第2次総合計画に係るまちづくり推進プランについて

諮問趣旨 (一部抜粋)

新たな総合計画の策定にあたっては、前年度貴委員会において、計画策定における市民参画のあり方についてご審議いただき、市民が計画策定に参画することの必要性と、その手続(手法)についてのご意見を賜り、これに基づき計画策定方針を定めたところです。(前期委員会の提言)

については、新たな総合計画策定における市民参画手続の実践をはじめ、将来に向け、市民参画・協働の分野に関する本市が目指すべき目標と、これを達成するための取り組み及び実践について貴委員会の意見を求めます。

②検討

今回の諮問は二つの部分

(i) 「新たな総合計画策定における市民参画手続の実践」についての委員会の意見



今の計画策定における市民参画・協働についての意見（助言）

(ii) 「将来に向け、市民参画・協働の分野に関する本市が目指すべき目標と、これを達成するための取り組み及び実践」についての委員会の意見



今後 10 年間瑞穂市として目指すべき「目標」とその達成の為の取り組みと実践についての意見（提言）

(i) に対する当委員会としての対応（案）

今後まず、市民検討会議、総合計画審議会について進捗状況を報告してもらい、よりよい市民参画・協働について助言があればする。

(ii) に対する当委員会としての対応（案）

理想（あるべき）市民参画・協働について検討 → それを目指しての具体的なプランの策定（事後検証可能なプラン）

【報告案件】

総合計画の策定状況について

1. 市民アンケートの結果について

1. 市民アンケートの結果について 資料 1

<目的>

新たな総合計画の策定にあたり、これからのまちづくりを市民の皆様と共に考え共に実践していくため、市民の皆様の意見を幅広くお伺いし、計画策定に反映させていくことを目的に実施。

<調査概要>

調査対象：市内に居住する18歳以上の男女（平成26年12月1日現在、住民基本台帳に登録のある者）

対象者数：3,300人

抽出方法：無作為抽出

調査方法：郵送法

調査時期：平成27年2月6日～2月23日

回収状況：

発送数	回収数※1	回収率※2
3,300件	1,284件	38.9%

※1 集計対象は1,271件（38.5%）

※2 第1次総合計画策定時のアンケート（平成16年9月）回収率は39.3%。
アンケート回収率は前回（H16年）回収率とほぼ同程度であった。

アンケートの分析結果①

<分析結果1 設問回答>

- 定住意向（住み続けたい理由）において、交通の利便度が大きく影響している。
- 今後 10 年間のまちづくりにおいて重点的に取り組むべき事項としては、「医療・福祉・介護の充実」が最も高く、次いで「高齢者対策」、「インフラ整備」であった。「子育て支援施策」では 30 歳代で突出して高い傾向が出ている。
- 人口政策（地方創生関係）では、「人口減少対策を実施すべき」の回答が 33.2%を占めた。
- 土地利用の仕方では、「働く場や経済を支える工場・事業所が少ない」が 33.2%、次いで「公園などの憩いの場が少ない」が 26%と 30 代で高い傾向を示している。
- 市の活性化に必要な土地利用では、「良好な住環境を整備する」が 31.2%と最も高く、次いで「空地や未利用地などの有効活用を促進する」が 27.0%、「穂積駅周辺のにぎわいを創出する」が 25.6%と若い年代で高い傾向を示している。

<分析結果2 自由意見欄>

- 「道路・公園・下水道など公共インフラ整備」に関する意見が全体の 16%で最も多い。
- 「公共交通（バスなど）の充実」に関する意見が 11%、次いで「機能的な都市空間の創出（駅周辺のまちづくりなど）」と「子育て支援策」に関する意見がそれぞれ 9%あった。

アンケートの分析結果②

＜アンケート分析結果から見えてくるもの（考察）＞

今後 10 年間のまちづくりにおいて「医療、福祉、介護の充実」や「高齢者対策」など、社会保障の整備、充実に関する事項への関心が 50 歳以上で高いことは、超高齢化社会に突入した日本社会全体の傾向と捉えられる。

一方「子育て支援施策」に関する分野に関するニーズが 30 歳代の子育て世代で高い傾向は、瑞穂市が県下で最も平均年齢が低く“若いまち”であることの特徴であり、この傾向は他団体ではほとんど見られないものと推察される。「子育て世代にとって魅力あるまち」を目指すことで、地域の活性化や高齢化対策にもつながり、にぎわいの創出、商工業の活性化、土地利用促進などあらゆる分野に連鎖的、好転的に作用させることなど将来に向け、「若いまち」を「まちの魅力」に変えていく取り組みなどは今後の重要な課題と考えられる。

2. 市民検討会議の状況について

〈目的〉

新たな総合計画の策定にあたり、市民の参画のもと、協働で総合計画の素案策定の検討を行うことを目的として、瑞穂市総合計画策定市民検討会議を設置。

〈検討経過〉

市民委員 28 名を 3 つの検討グループに分け、各分野毎の課題を抽出し検討を行った。

平成 27 年 2 月 第 1 回全体会（市民検討会議発足、委員委嘱）

2 月～ 各グループ毎の検討会議（3 回～5 回開催）

3 月 第 2 回全体会 各グループ検討状況中間報告

4 月 第 3 回全体会 各グループ検討結果のまとめ報告

市民検討会議の状況について

<検討状況（各グループのまとめ）>

●第1グループ（検討分野：防災、道路・公園・公共施設などのインフラ整備）

<検討テーマ>

①防災について

【課題】市民の防災意識・情報取得・連携強化・防災計画など

【意見】避難所の見直し・情報共有・防疫体制・耐震補強目標・ハザードマップの充実
非難訓練など

【提言】防災についての専門部署の設置と市と市民の連携強化

②駅の活性化

【課題】活気がない・送迎車で混雑・アクセス道路・駅周辺の空家など

【意見】官民協働の委員会組織・利用者ニーズの把握・空家利用・区画整理・駅移設など

【提言】駅の利活用について、官民協働の検討委員会を設置

市民検討会議の状況について

●第2グループ（検討分野：ごみ環境、地域コミュニティ、教育、文化スポーツ・生涯学習）

＜検討テーマ＞

①ごみのポイ捨て

【課題】河川、道路などのごみが目立つ・高齢者世帯が増加する中、側溝清掃が負担

【意見】清掃ボランティアの育成・側溝清掃を業者委託

【提言】「マナー」「意識改革の向上」が必要・市民団体（ボランティア団体）の育成

②スポーツ振興

【課題】屋内体育施設の貸出率が高いため利用できない

【意見】複合施設整備・スポーツ人口増加・コミセン施設複合化利用

【提言】施設の充実・広域連携などの仕組みづくり・健康増進

③歴史・文化

【課題】市内の歴史、文化の周知がなされていない

【意見】歴史や文化に触れる機会が少ない・冊子作成、語りべボランティアの育成・子どもたちに伝え、郷土愛を育てる

【提言】瑞穂市の歴史に関する本の展示など、歴史や文化に触れる機会を増やす

市民検討会議の状況について

●第3グループ（検討分野：医療、健康・福祉、子育て・行政改革・財政・市民参画、協働）

〈検討テーマ〉

①子育て・保育

【課題】 家庭・親とコミュニティ・市民組織・市の体制

【意見】 親の子育て力の低下・虐待、貧困・保育の量と質・行政まかせ・コミュニティでの居場所

【提言】 待機児童への対応・NPOへの支援・貧困、虐待への対応

②まちづくり・市民協働参画

【課題】 市役所組織体制・市民のまちづくりへの参画促進

【意見】 まちづくりに特化した市の組織体制がない・まちづくりに参加する市民が少ない

【提言】 専門部署、総合戦略室の設置・効果的な広報・新たな自治会とのかかわり方

2. 市民検討会議の状況について

今回までの会議内容について

